

令和二年度 奈良県租税教育推進連絡協議会会長賞

国を支える「税金」

奈良県立青翔中学校 三年 中川 咲良

私が小学生だった頃、ふと教科書のうらを見ると、

「この教科書は、税金によって無償で支給されています。」

という文章が書いていました。そのときは税金に対する知識が浅く、「無償」という言葉しか見ず、深く考えていませんでした。

しかし、税についての授業を受ける機会や消費税率の引き上げなどがあったことで税に触れることが多くなり、知識が増えるとともに考えが深くなりました。

今、私が中学校に通って普通教育を受けられているのも、税金があるからではないでしょうか。冒頭で挙げた教科書の無償支給、机や椅子等の学校備品の管理、更には教員を含めた教育に携わる人達への給料の支給など、これら全てが税金によって行われているのです。

もし税金が教育に使われていなければどうなるのでしょうか。学習環境の悪化、教育費の増額による家庭の圧迫などが思い浮かびましたが、実際は更に酷い状況になるかもしれません。やはり、税金があるからこそ充実した学校生活を送ることができているのではないのでしょうか。

税金は、教育以外にも様々なことに使われています。私の家庭は母子家庭で、ひとり親家庭が対象の支援を受けています。医療費助成制度、児童扶養手当、最近だとひとり親世帯臨時特別給付金というコロナの影響で給付された給付金などがあり、国からの支援はとてもありがたいと母は言っていました。これらの支援も税金によって行われており、私の家庭においても欠かせないものです。

教育や支援の他にも、医療、福祉、介護など様々な事に使われている税金ですが、学生が納めているのは消費税くらいで、日本の約五十種類の税金のほとんどは既に成人した人達が納めています。たくさんある税金のうち一番割合が高い税である所得税は、一年間頑張って働いて得た給料に対しての税金です。だからこそ、国民がより快適に過ごせるように税金が使われているのではないのでしょうか。

教育、医療などによって国を支え、生活をより豊かにしてくれる「税金の」陰には、しっかりと税金を納めている人達の努力や苦勞があることを忘れず、感謝したいと思います。また、税金によって支えられている教育をしっかりと受け、大人になればしっかりと納税して日本に貢献したいです。